



# 世界を知ろう！

GHANA

岡上 美紀

広島県広島市立観音小学校

- ◆実践教科 総合的な学習の時間
- ◆時間数 全20時間
- ◆対象学年 第5学年
- ◆対象人数 81名

## カリキュラム

### ■実践の目的

アフリカと聞くと、私たちは「暗い」「貧しい」「飢餓」といったマイナスイメージにとらわれてしまうことが多い。事実ガーナに行く前は、私自身もそういったマイナスイメージばかりでガーナという国をとらえていたように思う。しかし、今回の教師海外研修で実際にガーナを訪れ、素晴らしい経験や人々との出会いを通して、ガーナの人々の笑顔や明るさ、幸せに生きようとする前向きな姿勢に感銘を受けた。

### ここが素晴らしい！

イメージマップや写真を使って子どもたちの想像力を伸ばし、アディンクラやケンテを作ることでガーナの素晴らしさを伝え、子どもたちの持つアフリカに対するイメージを一新させました。

そこで、ガーナの文化に触れる授業を通して、子どもたちがガーナを身近に感じ、ガーナの良さや人々の生き方に触れ、「ガーナ大好き！」と思えるような授業を展開していきたい。そして、アフリカに対するイメージが少しでも変わればと願っている。また、最後に青年海外協力隊員の活動を知り、「自分だったらどのような活動をしてみたいか。」を考えさせ、青年海外協力隊を身近に感じて欲しいと思っている。

### ■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 「私たちが知っている世界は？」 自分たちが知っている世界の国々を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が知っている国名を付箋紙に書いていく。</li> <li>・地図帳を見ながら、世界白地図に付箋紙を貼っていき、自分たちが知っている世界を把握する。</li> </ul>	地図帳 世界白地図 ワークシート
3・4時限目 「アフリカのイメージは？」 自分たちが持つアフリカのイメージを出し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙に自分のアフリカに対するイメージを書き、班で模造紙にまとめる。</li> <li>・自分たちの班のイメージを発表し、クラスでイメージを共有する。</li> </ul>	ワークシート
5時限目（参観授業） 「切り取られた写真から…」 切り取られた部分を予想し、ガーナの文化を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部分が切り取られた写真をもとに、隠れた部分を予想したり、何を表す写真なのかを考えたりする。</li> </ul>	ガーナの写真
6～11時限目 「ガーナって…？」 ガーナの様々な文化に触れることを通して、その良さに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナビーズを使って、プレスレットやストラップを作る。</li> <li>・様々なアディンクラ模様の意味を予想し、それに込められた願いや思いを知る。→独自のアディンクラ模様を制作する。</li> <li>・ケンテ（ガーナの伝統的民族衣装）に使用される色の意味を知る。→「マイ・ケンテ」を制作し、それらをつなげ、クラスで1枚のケンテにする。</li> <li>・写真を参考に、ケンテの着方を班で予想し、ケンテの着方を知る。</li> </ul>	ガーナビーズ アディンクラ模様の本, 写真 ワークシート ケンテを着た写真 ケンテ ケンテに代わる布 ガーナで撮ったビデオ

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
12・13時限目 「ガーナで活躍した日本人」 アチュワ村に人生を捧げた武辺隊員の活動を知り、彼がガーナに賭けた思いや遺志を感じ取る。	・ビデオを視聴し、武辺隊員の活動を知る。 ・彼の手紙を読み、彼が自分の命を捧げてまでもアチュワ村で働いた理由を考える。	ビデオ：地球家族「意志あるところ、道は通じる」 書籍：女子パウロ会「ガーナに賭けた青春」 ワークシート
14～20時限目 「少年少女海外協力隊になろう」 自分の任国と職種を選び、調べる活動を通して、青年海外協力隊を身近に感じる。	・自分が行きたい任国・職種を選ぶ。 ・派遣前訓練の代わりに、任国について、パソコンや本で調べ、まとめる。 ・発表する。	JICAホームページ 青年海外協力隊のインタビュービデオ

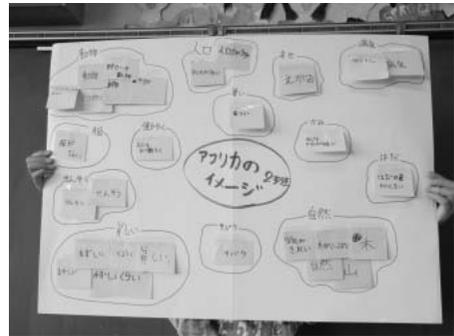
## 授業の詳細

### 3・4 時限目 アフリカのイメージは？

この一連の国際理解学習を通して、児童のアフリカに対するイメージがどのように変わっていくかを知りたいと思い、実施した。まず最初に、付箋紙に個々のアフリカに対するイメージを書いていき、班で話し合いをしながら、その付箋紙（\*赤…プラスのイメージ、青…マイナスのイメージ、黄…どちらでもない）を仲間分けして、1枚の大きな画用紙に貼っていった。話し合いの中で、自分たちのアフリカに対するイメージを再認識する子、友達とイメージが同じだったり違ったりすることに気づく子もあり、イメージを共有することができたように思う。出来たイメージマップを見ると、マイナスイメージの方がやはり多かった。これから、どのようにイメージが変容するかが楽しみである。

#### 児童の感想

- ・ほとんどの人が同じようなイメージを持っているのだなと思いました。その中でも、「貧しい」が一番多かったです。
- ・アフリカのイメージは、自然などのいいイメージばかりではない。子どもたちが働いているなどの悪いイメージもあることが分かりました。



子どもたちが作成したイメージマップ

### 5 時限目 切り取られた写真から…（参観授業）

週1度発行している学級通信で保護者の方にもガーナの事を発信してきたので、保護者の中にもガーナに興味を持ってくださっている方々がいた。そこで、10月の参観日にガーナの授業をすることに決め、ガーナで撮影してきた写真をもとに、ガーナの文化や生活の様子を知ると同時に、一つの写真でも色々な見方ができることに気づくことを目標に実施した。



体重測定



鐘を鳴らす少年

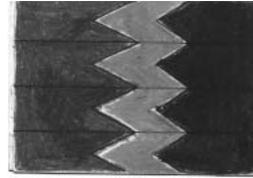


### 児童の感想

- ・最初は、アディンクラって何だ？と思いました。アディンクラは色々な意味があっていいなと思いました。私は、もう「マイ・アディンクラ模様」を考えています。
- ・アディンクラ模様はカッコいいなと思いました。「ハートマークが忍耐」という意味を知って驚きました。
- ・初めてアディンクラ模様を見て、「日本の標識に似ているな。」「この模様かわいいな。」と思いました。それぞれの意味を知って、もっといろんなアディンクラ模様を知りたいです。

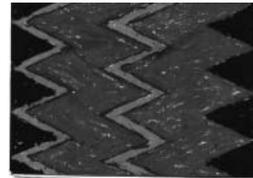
### 《緑・ピンク・青》

平和・幸運や愛、健康にはさまれ、愛情をいっぱい受けて、優しく穏やかな子に育て欲しいという願いを込めました。



### 《黒・赤・青》

赤は血、青はもう戦争をしないように平和を保とう、黒は戦争をしないように強い心を持つとうという意味で、作りました。



児童が制作したマイ・ケンテ

### マイ・ケンテを作ろう！

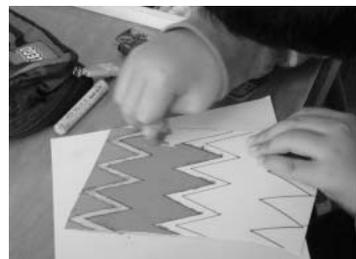
ケンテとはガーナの伝統的民族衣装で、大切な儀式などで着用する。木綿の糸、時には絹糸を使って織られ、ケンテに使われる色・折柄などには全て意味があり、着る人の考え方がケンテに表れている。そこで、今回はケンテに使われる色に着目し、授業を行った。まず、ワークシートを使って色の意味を予想させ、日本人とガーナ人の感覚の違いを考えた。次に、色の意味を考えながら、「マイ・ケンテ」を制作した。一人一人に13cm×18cmのケンテ柄の入った画用紙を配布し、自分が選んだ色をクレパスで塗り、裏には自分がケンテに込めた願いを書くようにした。

### 児童の感想

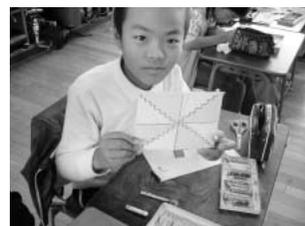
- ・最初は考えるのが難しくてなかなか作れなかったけど、後からはどんどん楽しくなってきました。
- ・布から作ってみたいと思いました。これなら家でも出来そうです。
- ・私は、赤・ピンク・黄で作りました。いろんな思いを込めました。まだまだ作りたかったです。
- ・世界でたった一つの「マイ・ケンテ」が出来ました。また作りたいです。



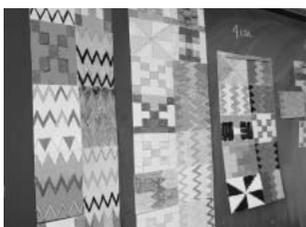
色予想のワークシート



クレパスで色塗り



完成したマイ・ケンテ



みんなのケンテをつなげて…

今回は、小学生には織柄の意味を伝えるのは難しいと判断し、色のみを授業で取り上げた。しかし、織柄一つ一つにも意味がある。機会があれば、織柄に焦点を当てた授業もしてみたい。そうすれば、自分で考えた織柄・自分で考えた色づかいの両方を盛り込んだ授業が展開できると思う。

### ケンテってどう着るの？

ケンテを着用している写真を数枚とタオルケット程度の大きさの布を1枚ずつ班に配布し、その写真を手がかりに布を使ってケンテの着方を考えさせた。子どもたちは何度も話し合ったり、布をまいたりして、試行錯誤していた。最後に、それぞれの班の着方をクラスの前で発表し、本物のケンテを数名の児童に着てもらった。子どもたちは、何よりも本物のケンテの大きさと重さに驚いたようである。



着方を考え中



本物のケンテ

**12・13**  
時限目

### ガーナで活躍した日本人

今回の教師海外研修で私が最も印象に残った場所。それが、アチュワ村である。アチュワ村は、ガーナの首都アクラから西へ120km離れたところにあり、青年海外協力隊村落開発普及員として武辺寛則さんが村に派遣されたのは1986年であった。彼は、パイナップル栽培を通して、この村に現金収入の道を開くことに成功し、その功績を称えられ、アチュワ村の長老にもなった人である。

しかし、活動から2年2ヶ月がたったある日、交通事故で帰らぬ人となってしまった。なぜ、最も印象に残ったのか。帰国してから振り返ってみると、やはりアチュワ村の人々の温かさに触れることができたからだと思う。武辺隊員が亡くなってから約20年も経とうとしているが、未だに彼の遺志を大切に、遠い日本から来た私たちを心から歓迎してくれたのである。

授業では、JICAのビデオを視聴したり、彼の功績が記された本を読み聞かせたりした。そして、彼がガーナに賭けた思いを共有した。ビデオの中で、武辺さんが交通事故で亡くなる場面では涙を流す児童もいた。また、本を読み聞かせた後は、「先生、その本貸して。」という児童もいた。それだけ子どもたちの心に響く教材だったからであろう。しかし、もう少し共有の仕方を工夫する必要があると感じた。ビデオが1時間では視聴しきれず、共有の時間がわずかしかたれなかったのが、今後の課題である。

#### 児童の感想

- ・ビデオを見て、泣きそうになりました。ああ、確かに短い人生だったけど、武辺さんは本当にいい人生を送って、みんなに愛され、幸せに包まれながら亡くなっていったんだなと思いました。「武辺さんが1年任期を延長していなければ…」と私は思ったけれど、武辺さんは任期を延長したことを後悔していないと思います。
- ・アチュワ村のために色々なことを実行して、村の人々を助けるのはとても大変だっただろうなと思います。でも、武辺さんは、あきらめたりくじけたりせず、アチュワ村のために一生懸命努力して、村の人々に愛されて…。武辺さんは「幸せだっただろうな。」と思いました。
- ・このビデオを見た今、書き切れない、言い切れないほど胸が痛いです。でも、これが武辺さんの運命だったのでしょ。きっと、武辺さんの親は、息子を誇りに思っていると思います。私は「こういう仕事もいいかな。」と思ってきました。「こういう仕事をして、人々の役に立ちたい。」って…。

## 所感

「子どもたちのアフリカのイメージを変えたい。」という一心で取り組んだ今回の授業。授業をする中で、「総合が楽しくなった。」「次はどんなことをするの?」「ガーナの事をインターネットで調べてきたよ。」という声が聞こえ、子どもたちの意欲がどんどん増していることを実感した。今、改めて「どうしてこんなにも子どもたちが興味を持ち、意欲的に取り組むことが出来たのか。」と考えてみると、やはり私自身が実際にガーナという国を訪れ、「ガーナ大好き!」という思いで授業に臨めたからだと思う。現地の写真やビデオ、現地で購入したもの(ガーナビーズ、チョコレート)といった多種多様な教材があったことも一因であろう。

今回の取り組みを通じて留意したことは、以下の点である。

- ①学校全体にガーナの事を伝える。⇒今回の取り組みとは別に、学校内の掲示板にガーナの写真を掲示したり、学校朝会の時間にパワーポイントを使ってガーナクイズをしたりすることで、全校児童に伝えるよう努めた。
- ②青年海外協力隊の方と連絡を取り合う。⇒現地でお世話になった青年海外協力隊員(理数科教師)の方と、帰国後もE-mailで連絡を取り合い、子どもからの質問に答えていただいたり、ガーナ授業の様子を伝えたりした。返信が届くと、その内容を児童に伝えた。何よりも、現地で活動している方々の生の声が一番児童に響くことを痛感した。授業後半で取り組んだ青年海外協力隊の活動を身近に感じるきっかけとなったと思う。
- ③保護者への啓発⇒学級通信で、ガーナの文化や総合の授業の様子を伝えてきた。保護者の方から、「この間アフリカの事をテレビでやっていたのだけど、子どもが真剣に見ていました。今まではこんな事はなかったのに、ガーナの授業がきっかけになったみたいです。」という嬉しい声も届いた。
- ④掲示の工夫⇒約3ヶ月にわたって取り組んだ今回の授業。授業以外でもガーナに触れて欲しいという思いから、教室や廊下の掲示はガーナー一色であった。それが、子どもの意欲の継続にも結びついたと信じている。

ガーナでの素晴らしい体験や良き出会いが、私自身を大きく変えてくれたと感じている。それと同時に、子どもたちの心に響く授業ができたと思

じている。今回の研修や取り組みは、私の国際理解教育・開発教育の出発点にしか過ぎない。これから先も継続し、積み重ねていきたいと思っている。

